

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 9 月号

（1）一度に 100 本運べる“スイカトンネル支柱運搬器具”完成

倉吉農業改良普及所は、J A 鳥取中央倉吉西瓜生産部と河島農具製作所との共同で「スイカトンネル支柱運搬器具」を開発した。開発までの経緯として、平成 25 年に倉吉西瓜生産部員を対象にアンケート調査を実施し、半数を超える部員より「トンネル支柱を運ぶ労力の負担が大きい」との回答をうけ、開発に着手した。メリットは、スイカ収穫用運搬機に取り付けしてトンネルの規模に合わせた幅や長さの調節が可能となる。また、肩にかけて運ぶ場合と比べ、歩行距離が 5 分の 1～7 分の 1 に短縮、1 人で準備から片付け作業が容易に行うことができる。



今後、この器具が普及することにより、作業負担が軽減して高齢生産者の面積維持、若手生産者や新規就農者の参入、生産拡大などにつなげる。

（2）スマート農業の普及「ドローンによるブロッコリー圃場の撮影」

J A 鳥取中央管内の琴浦ブロッコリー圃場において、ドローンによる空中撮影を実施した。圃場全体の生育状況を画像により一斉に把握することで、収穫時期を明確にできることや、圃場環境の悪化などで生育のばらつきや病害の発生個所がわかるため、早期の原因調査が可能となり、適切な防除、肥培指導が期待される。また、ブロッコリーの個体を真上から撮影でき、大きさの判別が的確に行えることも確認した。今後の導入に向け、生産部、J A、全農とつとりで改善点などを共有し協議を進めていく。



（3）岡山県 J A まにわ「あぐりニコニコスクール」との交流会開催

8 月 2 日、J A 鳥取中央あぐりキッズスクール第 4 回特別授業「夏休み特別カリキュラム」を岡山県 J A まにわ管内で開催した。ヤマメのつかみ取り&そうめん流し、各 J A の特産物紹介&クイズ大会、J A 夏祭り屋台など、ユニークな企画を通して豊かな自然と人とのふれあいを深めた。今後も、未来を担う子どもたちに農業体験を通して 3 つの大切さ（農業、食べること、いのち）を伝えるため、各種関係団体と連携をはかり、食農体験学習に取り組む。



(4) 鳥取県オリジナル品種米「星空舞」の現地調査を行う！

9月2日、「星空舞」ブランド化推進協議会は、収穫間近となったJA鳥取中央管内8か所の試験圃場を巡回し、生産技術の確立に向けた生育データ収集として、稲の穂数や

長さを調査し収穫前の生育状況を確認した。1.6haで「星

空舞」を栽培している倉吉市の生産者は「草丈が短く倒伏

しにくい点や、収量が取れるという特性があるので期待している。今年の出来栄を見ながら増やしていくことも考えている」と話している。生育は順調に進んでおり、9月20日頃から各地区において収穫予定で、9月21日には県内4つの直売所で試食宣伝会を行う。



⑤ 東郷梨まっりの開催！

9月7日、JA鳥取中央東郷果実部は、東郷梨選果場において第14回東郷梨まつりを開催し、県内外から大勢の来場者を迎え、大盛況であった。二十世紀梨の試食や搾りたての梨ジュース試飲コーナーには、長い列が途切れることなく旬の梨のおいしさをアピールした。また、梨「新甘泉」を使ったカレーの販売、梨の詰め合わせ放題や梨の皮むき選手権大会など、大人から子どもまで楽しんだ。

同果実部の寺地政明部長は「朝早くからたくさんのお客さんが来てくださり大変嬉しい。今年も順調に生育し、生産者の栽培努力により良い梨に仕上がった。今後も量を減らさず頑張っていきたい」と話した。



⑥ 倉吉総合産業高等学校へ機材・備品を贈呈！

JA鳥取中央とJA共済連鳥取は、倉吉総合産業高等学校へ「地域活性化・農業の活性化に資する教育環境支援活動」の一環として県内地域産業の時代を担う若者の育成支援を目的とし、教育実習環境等の充実に向けた機材・備品など一式を贈呈した。卓上レーザー加工機、スチール書棚、介護ベッドなど34点を送り、栗原組合長から同校生徒会長へ目録を手渡した。音田生徒会長は「機材・備品は、生徒の実習や課題研究にとって欠かせない。地域や学校で学んだことを還元できよう頑張りたい」と話した。



(3) J A鳥取西部の取り組み

① アスパルで旬みつけPRイベント

J A鳥取西部教育広報課は8月4日、J Aグループのスマートフォンアプリ「J A旬みつけ！」の登録拡大キャンペーンを、農産物直売所ふれあい村アスパルで初めて開催した。「旬みつけ！」は、J Aや直売所が配信する、旬の農産物やイベントなどの情報を受け取れる無料のアプリで、直売所をきっかけにして、准組合員や地域住民にJ Aの取り組みなどを伝えることが目的。



登録キャンペーンは、同店内入口に特設のブースを設け、職員が2次元コード（QRコード）を印刷したチラシを手にダウンロードを勧め、約100件のダウンロードを確認した。アプリの登録をした米子市内在住の60代の女性は「アプリの存在は知っていたが、登録方法わかりにくくインストールしていなかった。今回のイベントで丁寧に教えてもらい登録できたので良かった」と話した。

J A直売所の担当者は、「以前よりフェイスブックを活用していたので、「旬みつけ！」と合わせ情報を効果的に発信することで、農産物に関する地域消費者への訴求力を高めたい」と話した。

② 農作業の無料職業紹介所開設

J A鳥取西部営農部営農企画課は、国の認可を受け、8月1日から農作業の無料職業紹介所を開設し、運営を始めた。

繁忙期における労働力の確保や、農業者の支援を進め生産性と農業所得向上を図るのが目的で、農業者の高齢化は進み、人手不足が深刻化する中、J Aは通年の労働力確保により生産力の維持に期待している。



職業紹介所は、営農企画課に窓口を置き、求職者、求人者の双方の申し込みを受け付け、マッチングを進め、J Aは両者のパイプ役となり、3者面談するなど円滑な雇用関係の締結につなげる。また、農家の雇用は、繁忙期だけの雇用が主であり、通年働く環境が整備されていないため、当面はJ Aの運営する共同選果施設などの求人と合せ、雇用期間を組み合わせることで、通年働く環境を整える計画としている。

営農企画課の高嶋祐一次長は「農家の人手不足解消につながるだけでなく、就職者には、農業に携わることで地域農業の理解者となってほしい。」と話し、「無料職業紹介事業で、地域農業の経営安定に貢献し、農家の力となれるように取り組んでいく」と気を引き締めた。

③ 中山支所終活セミナー

J A鳥取西部中山支所では7月23日、「ラシユールなかやま」において終活セミナーを開催した。昨年が続いて2回目の開催となり、女性会の会員を中心に30名が参加した。LAによる「相続税、贈与税」についての説明や、外部講師による「生前整理」についてのご案内では熱心に耳を傾けられ、葬祭センター地頭センター長による「お墓や仏壇」についての話には大きく頷いている方々もいた。



また、今年のアンケートを踏まえ、ラシユールとの意見交換会も行い、葬儀についての質問や今後ラシユールをより良くするための意見も活発に発言された。セミナー終了後のアンケートでは、「2回目の参加だが総合的な内容で良かった」「生前整理を始めるきっかけになった」など好意的な反応が多く、「一度では忘れてしまうのでぜひ続けてもらいたい」との意見もあった。中山支所では今後も組合員の葬祭事業への理解を深めるとともに、相続税対策などの案内を行っていく。

④ 日南町職域バレーボール大会への参加

9月4日～6日に職域バレーボール大会があり、町内勤務職員、町内在住職員が参加した。共済課 LA 安達貴之職員が「大会を通じて職場同士の交流を一層深め、正々堂々とプレーする事を誓います」と選手宣誓し、男子8チーム、女子3チームの熱戦が繰り広げられた。選手のみならず、応援に来られた方やお子様まで、幅広く交流できた大会だった。今後も継続して参加する予定。

(5) J A全農とっりのJ A自己改革の実践

① 「ガイナレ鳥取」へ鳥取県産米きぬむすめを贈呈

令和元年7月8日、ガイナレ鳥取への「鳥取県産米きぬむすめ」贈呈式を行った。食を通じた地域貢献の一環として昨年より鳥取県を代表するサッカーチーム「ガイナレ鳥取」へ、メンバーが1年間で食べる分のお米を2トン提供している。ガイナレ鳥取岡野GMは「きぬむすめを頂いてから選手の体が大きくなり、相手チームの選手に当たっても倒れなくなった。このような形で支援していただき本当にありがたい。」と話した。



② T A Cアグリビジネススクールを開催

営農（技術・地域振興・経営など）に関する知識習得・事例などの共有を図るため、担い手農家・JA-TACを対象としたTV研修を年10回開催している。多くの方が出席していただけるよう五反田事務所と米子事業所の2ヶ所を開催場所とし、農業生産だけでなく加工・販売、経営の知識を深めていただいている。全農ではこれからも担い手農家が実感できる支援を行っていく。

<2019 年度開催日程およびカリキュラム（予定）>

回	日程	時間	テーマ
1	6月5日(水)	10:00~15:00	消費動向を踏まえた生産販売の取り組み
2	7月2日(火)	10:00~15:00	省力・低コスト資材、技術情報①
3	8月6日(火)	13:00~15:00	直近の農業情勢①
4	9月4日(水)	13:00~15:00	農業現場における労務管理
5	10月2日(水)	13:00~15:00	直近の農業情勢②
6	11月6日(水)	10:00~15:00	会計・税務研修①
7	12月4日(水)	10:00~15:00	会計・税務研修②
8	1月7日(火)	10:00~15:00	会計・税務研修③
9	2月5日(水)	13:00~15:00	省力・低コスト資材、技術情報②
10	3月4日(水)	13:00~15:00	労働力支援

③ 鳥取発！全国そして世界へ 鳥取県産梨PRに全力投球

鳥取県産梨の出荷がピークを迎えており、令和元年8月27日に大阪で、30日に東京で鳥取県産二十世紀梨出荷セレモニーを行った。セレモニーには鳥取県知事をはじめ生産者の代表者、JA、わかとりメイツ等が出席し「今年の出来栄えは糖度、玉太りともに素晴らしい仕上がりだ」と卸売会社や仲卸にPR。

また、県内のみならず9月6日には台湾へも販売促進に出向き、現地のメディアや消費者に鳥取県の「新甘泉」をPR。



④ 中央家畜市場係留場にミスト扇風機を設置

鳥取中央家畜市場の係留場へミスト付き扇風機を設置した。

7月のセリでは、フル稼働し冷たい風が流れて上場を終えた牛たちも気持ちよさそうに過ごしていた。

これからも牛たちはもちろん、生産者や全国から来てくださる購買者のため市場環境の整備を進めていく。



(6) 第19回JAバンク鳥取年金友の会グラウンド・ゴルフ県大会を開催（JA鳥取信連）

JAバンク鳥取は、令和元年7月19日(金)に“第19回JAバンク鳥取年金友の会グラウンド・

ゴルフ県大会”を鳥取市伏野の白兔グラウンド・ゴルフ場で開催した。

今大会は、各JAの予選を勝ち抜いた精鋭36チーム総勢216名により熱戦が繰り広げられた。また、JAの金融担当部長や、参加チームの管轄店舗の支所（店）長などの出席を得て、参加チームの応援など大会をサポートいただいた。

JA年金友の会は、会員の親睦と健康の保持増進、明るく豊かな暮らしを築くことを目的に、様々な活動を実施している。JAバンク鳥取は、今後も地域と共に発展してきた組織として、地域貢献を使命と考え、地域に根差した活動をサポートしていく。

（7）JA共済連鳥取のJA自己改革の実践

① JA共済 農業リスク診断活動の取組み

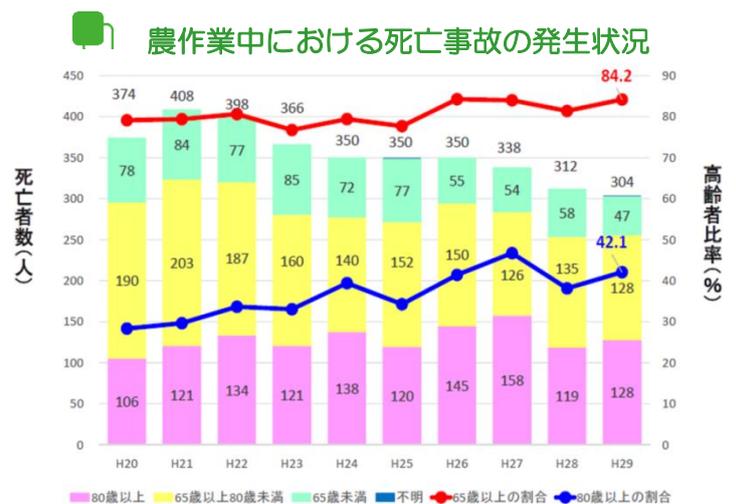
農業就業人口の減少や高齢化が進行するなか、農業における死亡事故は高水準で推移しており、危険業種と言われる建設業を大きく上回る発生率となっている。

そこで、JA共済では農業者に対して、農業経営を取り巻くリスクに関する意識喚起を行うとともに、リスク対策の有無の確認を行い、明らかになったリスクに対する保障提案等を行う

「農業リスク診断活動」を実施している。

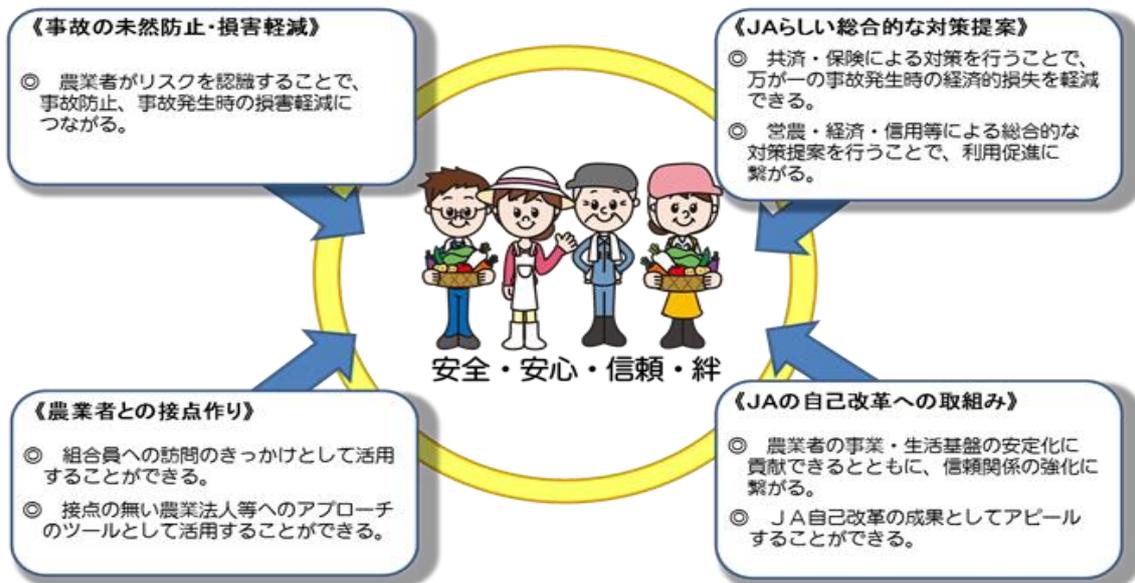
本会では農業リスク診断活動を平成30年度からスタートしており、県下3JAで農業リスク診断活動の実績がある。診断にはラブレッツ端末機（タブレット機器）を活用し、システムにてリスクに対する「関心」や「備えの有無」を分かりやすく確認できる。また、農業リスク診断活動をきっかけに、農業者が農業を取り巻くリスクを認識することで、事故防止や事故が発生したときの損害軽減につながることも期待される。

JA共済では、今後も農業リスク診断活動を通じて、農業者に対して安心・満足を提



供して農業者との更なる関係強化を図っていく。

農業リスク診断活動のイメージ



- ② 実業高校への教育実習機器の寄贈
- ③ 第8回JA共済むてきカップ学童軟式野球鳥取県大会を開催
- ④ 「交通安全啓発資材」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

※別添資料参照